

に羽立町があったけれども、町名変更によって消滅してしまった。

したがって、江戸時代後半に成立した開拓地名は、かつて幕藩体制のもとに存在したのであったが、その生命は長く続くまでには至らなかった。歴史地理的な分野では研究対象にはなるかも知れないが、これとても将来、忘却の彼方へおしやられそうな気がしてならないのである。(中略) 地名の伝承は地域文化のシンボルであり、生命線でもある。自分が生まれ育ち、現在くらしている地名を誇りとしたい。

(秋田地名研究会会報28号 石川 雄造)

## なしのき

なしのき  
八郎潟町 小池 梨ノ木  
八郎潟町 浦大町 梨子ノ木

草木の名称は近くに名の由来となった草木があったために命名された場合と当て字で付いた場合、縁起を担いで付けた場合がある。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

## のきしま

のきしま  
八郎潟町 軒嶋

## のだ

のだ  
八郎潟町 野田  
八郎潟町 字 小池 野田

### 1. のだ

上羽立、西野、四ッ屋、谷地中、北川尻、海老沢、野田などは戸村堰(戸村十太夫が慶長9年=1604年に着工し、慶長12年=1607年に完工)の開削で成立した集落である。

(1987年 三浦鉄郎著「新編・秋田の地名」)

### 2. のだ

馬場目川の下流右岸部の平地に位置する。東方に森山を望む。

#### 〔中世〕野田村

戦国期に見える村名。出羽国秋田郡のうち。天正19年正月17日豊臣秀吉が秋田実季の当知行を安堵した朱印状写に「野田村・山田村」405石余とあり(秋田家文書)、これが唯一の所見史料。八幡神社および修験正覚院は、この時期にはすでに存在したという。境内に南北朝期頃の板碑がある。

#### 〔近世〕野田村

江戸期～明治22年の村名。秋田郡のうち。秋田藩領。藩政施行早々、秋田旧臣中川宮内、次いで佐竹重臣の戸村十太夫が当村を含む周辺12か村の開発指紙を与えられ、慶長12年頃までの間に馬場目川旧河道を利用し、戸村堰(六ヶ村堰)を開削寛永5年11月23日佐竹家臣真崎季富が、12か村中当村を含む6か村開発の指紙を獲得。「正保国絵図」「元禄7郡絵図」とともに108石の村と図示するが、慶安元年「秋田潟東之内野田村御検地野帳」以下、天和4年・宝永2年の各黒印高帳など、この間の開発の成果を数値で呈示(町史)。「享保黒印高帳」では村高205石余・当高196石余(うち本田14・本田並64・新田18)、「寛政村附帳」では当高197石余(ほとんど給分)と記載。親郷一日市村の寄郷である。戸数は「享保郡邑記」で28軒、「秋田風土記」で25軒。村鎮守八幡社のほか、神明社がある。修験正覚院(教覚院・福性院)は八幡社別当。「天保郷帳」は196石余。明治11年秋田郡の村として、戸長役場を一日市村とする9か村と連合。同22年南秋田郡面潟村の大字となる。

#### 〔近代〕野田

明治22年～現在の大字名。はじめ面潟村、昭和31年からは八郎潟町、同33年からは五城目町の大字となる。

(1980.3出版 角川日本地名大辞典 5 秋田県)

\*\*\*\*\* 八 行 \*\*\*\*\*